

Japanese Patent Laid-Open Publication No. 54-27083

Publication Date : March 1, 1979

Patent Application Number : 52-90819

Application Filing Date : July 28, 1977

Inventor and Applicant: Kiichi Warashina

Method of Improved Simplified Printing Process

The present invention relates to a method of an improved simplified printing process for rising a nap on textile. According to the present invention, when a number of parallel napping areas A are formed on an original textile, all mutual spaces B which are located between adjacent parallel napping areas A are bent at center position lines C so that the naps and the line widths A arranged in parallel do not get out of shape. By doing this, the mutual spaces B between the napping areas A protrude to the back side surface of the original textile with the both ends of each space B being closer by an equal half width of the space B. Then, the original textile gives such a configuration that all the parallel napping areas A are linearly continuous. According to this process, the napping areas A are scratched up with a napping brush made of a metallic interstitial needles. When the intended napping operation finishes, the parts B which are located between the continuous napping areas A are released, and the center portion lines C are unbent, whereby the mutual spaces between the napping areas A are restored to the original position.

⑨日本国特許庁
公開特許公報

①特許出願公開
昭54-27083

⑤Int. Cl.²
D 06 C 23/02

識別記号

②日本分類
48 C 22

庁内整理番号
7211-4L

③公開 昭和54年(1979)3月1日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全2頁)

④捺染加工の改良簡易方法

①特 願 昭52-90819

②出 願 昭52(1977)7月28日

③発明者 菓科喜一

泉大津市式内町1の4

④出願人 菓科喜一

泉大津市式内町1の4

⑤代理人 弁理士 宇津呂義雄

明細書

1.発明の名称、捺染加工の改良簡易方法

2.特許請求の範囲

あらゆる織物に縦型、横型或は斜形状に起毛加工処理を施すことで、従来のように起毛加工処理が生地全面を対称化した方法と異なり、本方法は加工処理部分の間隔又は縫隙、斜等を相互に工夫して、あらゆる目的に合致した模様を現出させ得るようにし、又間隔も広狭又は交互に凹凸を対称に配置し、或いは波型をも配置して仕上げ得ると共に、張形と熱加工処理をも完全に加工することを同時に上容易にした改良簡易加工方法である。

3.発明の詳細な説明

本発明は生地全域を均等なる張張度で保持し現行乍ら該生地に多くの起毛平行領域Aを設けようとする起毛並びに織巾Aを狂わさない如くに、並列し相互の間隔Bを中心位置線Cですべてを表面へ折曲げて、AとA

の相互間部分BをBの両側にある均等の半巾づつを横近せ乍ら生地裏面側に突出させた状態に保持する。その時本生地はすべて起毛平行領域Aを一直線連続状になし得る。この状態を永く保持させるため1時的にAとAとの相互間隔BをC線で裏面に引込めるものである。斯くすることで金属性で尖先を備えて深浅色々と調節して成る割り込み針を構成せる起毛刷毛でかき起し得るようとした。

昔はアザミの巻貝を用いていたが今は最も入手も確しい。斯くの如く起毛平行領域Aばかりか連続し合つたものにあし得たので対に起毛作業は容易になし得た。目的の起毛作業がなし得た時には起毛平行領域AとAを連結せる部分Bを解き、B巾の中心位置線Cを分離する時は元のAとAの相互間隔Bは元に還元する。この目的とするところは起毛平行領域Aのすべては連続中に起毛作業を造成し得て、上記起毛平行領域Aは簡単にB間隔地を残してとの起毛しないBで連続保持さ

れるものである。

これ等の加工中起毛平行領域Aに図に示す如く適宜にハート形押版D、又はダイヤ形押版D'を例示の如く設置することもあり得るが、この時はこれ等の押版D又はD'はこの部分のみ起毛作業は防止されて模様状に起毛をき部分を残存させ得る。

最初に記載せる如く斯くの如く起毛平行領域Aばかりか連続し合つたものにあしたので、茲に起毛作業は容易かつ好生状になし得た。時には起毛平行領域AとA'を連結したる部分Bを解き、Bの中心位置の線Cを解き分けた時は、最初のAとAとの相互間隔地Bは元の状態に還元する。上記のこのAとA'の連続作業は専ら抜糸加工の主目的を簡易になし得るためと、極めて清らかに起毛作業のなさない部分を残し得る効果を生みしたものである。

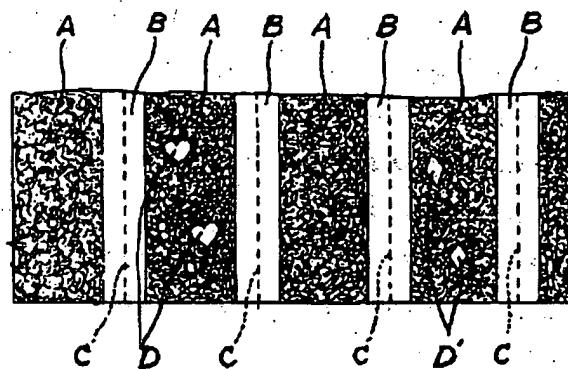
各図面の簡単な説明

第1図は数個の起毛平行領域Aの各間に折曲げる中間

特開昭54-27083例
部Bを設けて、更にそのBの中央に折曲部Cを配置したところの平面図であり、第2図は起毛平行領域AとA'の中間に折曲部Bを設けその中間線をCで示したもので折曲た時は各Aは接近してある。

特許所有人 萩神亮一
代理人 宇津昌雄

第1図



第2図

